

原発を動かすための「インチキ」だらけ…お役所がつくった「国民の命を守る避難計画」の不都合な真実

住民の自主避難を阻止するための「避難させない計画」

PRESIDENT Online

日野 行介
調査報道記者

広瀬 弘忠
東京女子大学名誉教授



1 2 3 4 5 次ページ

原発事故が起きた時、周辺住民がどうやって避難するかについては原発避難計画で定められている。しかし、計画策定の過程はほとんどが非公開で、実効性にも重大な課題があるという。調査報道記者・日野行介さんの著書『原発避難計画の虚構 公文書が暴く冷酷な国家の真意』（朝日新聞出版）より、東京女子大学の広瀬弘忠名誉教授との対談を紹介する一。



写真= iStock.com/paprikaworks

※写真はイメージです

全ての画像を見る (4枚) >

“秘密勉強会”で議論されていたこと

【広瀬】さっきまでこうして日本の地図を見ていたんですが、どこも事故が起きたら危険で、原発ができる場所がない。それでも造ろうと思えば、嘘をつかざるを得ない。日野さんは、その部分に情報公開（請求）というメスで迫ったわけですね。

【日野】本書の取材を始めたきっかけは今から3年前に遡ります。前著『原発再稼働 葬られた過酷事故の教訓』（集英社新書）で、数ある避難計画の課題のうち「避難先の確保」に狙いを定め、避難計画が再稼働を正当化するためのハリボテであると指摘しました。

その後、2年がかりの不服審査請求が認められて茨城県の“秘密勉強会”の資料800枚が開示されました。そこでは「バスの確保」「安定ヨウ素剤の配布」「避難退域時検査」などの課題を巡っても、公表する情報を絞って、住民に受け入れさせる方策を検討していました。

「避難先の確保」や東海第二原発だけではなく、全国の原発の避難計画が全て再稼働を正当化するだけの虚構なのではないかと疑いをもちました。

人気記事ランキング

1時間 週間 いいね！ 会員

金持ちか貧乏かは関係ない
ホリエモン「これをケチる意味がわからない」…仕事のできない人が惜しんでいる「人生の必要経費」



「親が死んだ年齢」は全く参考にならない
寿命は50歳までの7つの習慣で決まる…ハーバード大学が87年追跡してわかった「長生きできる人の条件」



疲れが溜まる現代人の「食のスパイラル」を断ち切る
ホリエモン「これをケチる人はアホ」…仕事のパフォーマンスに差が出る1回30円の「投資」、数千円の「サービス」



「わかる人にだけわかればいい」という言葉の新しい価値観
エルメスでもユニクロでもない…ファーストクラスに乗る「本物の富裕層」が普段着にする“ジャージ”の正体



司法試験合格率3%〜40%超のカラクリ
だから法科大学院制度は沈没寸前になっている…法曹志望者を5分の1に激減させた「政府の大失策」



自衛隊立合等文書にはガッカリした
進次郎農水大臣のほうがよくぼろまん…高市政権に潜り込んだ「コメの値段を下げたくない農林族」の正体

生産現場が直面する「気候変動」と「農業統計」二つの大問題
JAでも卸売業者のせいでもない「コメ価格高騰」の真犯人が判明…現役農家が明かした「コメが消えた本当の理由」

ハーンはセツを見て「足が太いから士族の娘ではない」と怒った
朝ドラ「ばけけ」のモデル、ラフカディオ・ハーンと18歳下の小泉セツが会ってすぐ事実婚状態になったワケ

なぜ単独行動を好むクマが「大群」で寝たのか
クマは「人間の肉の味」を見えると凶暴化する…飢えた30頭のヒグマが400人の登山労働者を襲撃した背景事情

ワゴンRに乗ってきた「とんだタヌキ」
だからスズキの宴会のビールはすべて「スーパードライ」になった…鈴木修を訪問したアサヒビール社長の秘策

もっと見る >

株式会社ポケモンセンター

【六本木】 人事＜採用＞研修＜労務＞エンタメ作品世界1位の総収益を誇る「ポケモン」/平均残業15H

仕事詳細

学校法人麻布学園

学校事務スタッフ/年休120日以上/完全週休2日/実働7時間

残り7日

仕事詳細

株式会社サンリオ

【大崎】 IT担当◆電装プライム工場/物販事業に関するシステム構築におけるPMO/健康経営優良法人認定

残り7日

仕事詳細

東京都

東京都職員/特別な公務員試験対策は不要/経験者採用選考

国民の命に関わる問題が密室で決まる

【日野】そもそも原発の運転で直接に利益を受けるのは電力会社です。自治体が避難計画を作らなければならない筋合いはない。それなのに、原発事故を自然災害と同じように扱い、「地域の実情を知っているから」という建前で自治体に作らせています。「読後廃棄」資料は政策の根幹にある嘘をあぶり出しています。

【広瀬】ちょうど今、新潟県が東京電力柏崎刈羽原発の再稼働に傾きかけているように見えます。再稼働に際して、首長は一応渋ったようなポーズを見せますが、交付金などの恩恵が魅力なので、最終的には必ず受け入れます。国はアメとムチの使い分けで自治体をコントロールしている。こういうところを透明にしていけないと原発行政を改めることは難しいでしょう。

【日野】非公開の会議では自治体側も国に厳しく指摘しています。ただ、これは問題が発覚した際に備えて「我々も裏では抵抗しているんですよ」というアリバイ、責任逃れの面があります。公の場で指摘してきたのは新潟県の泉田裕彦元知事ぐらいでしょう。

しかし皮肉なことに、自治体のアリバイ的な抵抗を記した議事録を情報公開請求で入手したことで、原発避難計画の中に潜む矛盾や欠落を把握することができました。

【広瀬】日本の行政機構は誠実に理由を説明することをしない。国民から遠くかけ離れたところで、何も知らせないうちに全てを決めてしまう。そういうやり方をずっとやってきたわけですから、これは簡単には直りませんね。

住民避難に使うバスを誰が運転するのか

【日野】本書に収めた数多くのエピソードの中で、私自身が最も衝撃を受けたのはバス運転手の1ミリシーベルトの問題です。

全ての住民が自家用車で避難できるわけではないので、バスと運転手を確保できなければ避難計画は成り立ちません。多くの道府県が既に1ミリシーベルトの上限を定めた協力協定を地元のバス協会と結んでいます。ところがUPZ（5～30キロ圏）の避難基準であるOIL1は毎時500マイクロシーベルトなので、単純計算だと2時間で超えます。

非公開会議の議事録には、佐賀県の担当者が「OIL1をどう書くか悩んでいる」と吐露する場面が収められていました。どう書いても嘘にしかならないけど、できるように書かなければならないので困ったのです。

私がある自治体の担当者に「本当にOIL1を超えた場合の避難を想定しているんですか？」と尋ねたら、「そんなのできるわけじゃないじゃないですか」と笑われてしまいました。最初からフィクションなんです。

次ページ>



INFC

環境・社会・
消費者と
応、何か

会社の成長を
未来を考
敗しない

多くの住民が放射能の中に取り残される

【広瀬】元々バスを使うという発想自体が貧弱ですよ。バスには運転手が必要だし、運転手が納得しなければ行かない。1ミリシーベルトを超える被ばくをあえて引き受けてまで出勤しなければいけない理由はありません。

【日野】規制委は2022年にバス会社が独自に被ばく限度の指標を設けられるよう原子力災害対策指針を改定しました。これを本当に実行させれば、バス運転手の被ばく限度が50ミリあるいは100ミリシーベルトに引き上げられるので問題が解決するよう見えます。

ところが規制委は協定を作り直すよう道府県に指示をしていないし、そもそも指針改定を周知すらしていません。つまり本当に実行させるつもりがない。こんな無意味な指針の改定をした理由は、国会や裁判で「1ミリシーベルトの上限があるからバスは駆けつけられない。こんな避難計画には実効性がない」と指摘を受けた際に、「指針を改定したので大丈夫です」と言い逃れるためです。

実際、山本太郎さんの質問主意書に対して、規制委は改定指針の文言を丸写しで返してきました。「やってるふり」「できるふり」の指針改定です。これでもし再び事故が起きればどうなるか。バス会社は「1ミリシーベルトが上限なので出勤させられません」と言うでしょうし、規制委は「指針を改定して手当て済みの問題です」と言い訳をするだけで、多くの住民が放射能の中に取り残されます。



※写真はイメージです

「デタラメ」ではなく「インチキ」

【広瀬】実は今回、この本をチャットGPTに要約してもらいました。「問題の本質から見える矛盾の露呈」、「法的根拠の欠如と責任転嫁への批判」など、かなりの確な要約がでてきました。難しい内容だけれども論理構成がよくできている証明です。

【日野】書きたいこと、書かなければいけないことが多すぎてまとめるのに苦労しました。一本筋を通して、テーマを透徹しなければ、説得力を持って読者を引き込むことができません。何とか貫き通すことができたのかなと思います。

【広瀬】この本に通底する基本的なテーマは行政の欺瞞ですね。「デタラメ」ではなく「インチキ」であると。

【日野】その通りです。新型甲状腺測定器の開発失敗について、規制委の伴信彦委員が「見込み違いだった」と釈明する場面があります。しばしば役所の担当者は「間違えました。すいません」と言って、問題を「ミス」や「デタラメ」にすり替えます。でも実際には国民を欺くのが目的の「インチキ」「イカサマ」です。

次ページ>

IN

環境・消費
応、

サバン
「ちょ
ど…
取得

会社の
未来
敗し
きた

行政の責任を明らかにする情報公開請求

【広瀬】原子力行政に限らず、日本は企業も含めた全体的な枠組みがインチキでもっているのではないかと思います。騙されて喜ぶ人もいるのでなかなか無くなりません。

【日野】そこで情報公開請求がカギになると思っています。情報公開請求の意義は、行政が本来果たすべき証明責任を行政に負わせることにあります。この分野に多少なりとも関心がある人なら原発避難計画に実効性が無いことは分かっています。

しかし「絵に描いた餅」「机上の空論」といくら訴えても、役所は「避難計画に終わりや完璧はない。これから頑張ります」と言い返して、水掛け論に持ち込んでしまう。実効性があることを証明しなければならないのは役所のはずなのに、「お前たちが証明しろ」と住民に責任転嫁しています。それが情報公開請求によって役所に証明責任を押し返すことができます。

【広瀬】日野さんがやっているような調査報道はジャーナリズムの根幹にあるべきです。しかしそれが片隅に追われて、どこも金太郎飴のような報道ばかりです。みんなが日野さんのように情報公開請求をすれば大きく変わると思います。

PR

①

人々

1

1

2

避難計画を成り立たせるための“仕掛け”

【日野】 広瀬先生から以前にお聞きした「日本の原発行政は非人道的である」という言葉は、私が原発避難計画を検証していくうえで座標軸になりました。

特にそう感じたのが「安定ヨウ素剤」と「避難退域時検査」の目的です。規制委が頑^{かたく}なにUPZの緊急時配布の原則を変えない目的は、「避難する前に一時集合所に寄って安定ヨウ素剤を受け取らなければいけない」と思い込ませることにあります。

【広瀬】 安定ヨウ素剤を餌に使うって、心理的にコントロールしようというのはとんでもない話ですね。

【日野】 そうです。避難退域時検査も同様です。被ばくによる健康被害を防ぐためではなく、検査を受けなければ避難できないと思込ませる狙いです。役所が重視していることは、自主避難を思いとどまらせて屋内退避を守らせる心理的抑止効果です。そうしなければ原発避難計画が成り立たないと考えているからです。

【広瀬】 しかし関門があるから逃げられないと思込ませようとしても、自主避難を防ぐことはできません。原発周辺の住民へのアンケート調査で、誰がどの時点でどう逃げるのかを尋ねました。UPZの住民は「PAZ（5キロ圏）の住民が逃げるなら私たちも逃げる」という答えでした。強制力はないので自主避難を防ぐことはできません。

福島第一原発事故の教訓はどこへ

【日野】強制力がないことを役所もよく分かっています。だから勝手に逃げないよう仕向ける仕掛けをあれこれと作るわけです。その結果、原発避難計画の中身は「避難させない計画」になり、被ばくを防ぐという表向きの目的から考えれば不合理でしかないという矛盾が生じます。ところが、原発再稼働を後押しすることが目的で、実際に事故が起きることを考えていない前提から見れば実に合理的です。

【広瀬】何でも言いくるめれば済む、最後まで騙しきればいい、ということでしょう。人道を無視しているのは明らかですね。自然災害によって引き起こされる複合災害は、足し算ではなく掛け算になって巨大になります。自然災害は防げなくとも、原発事故は人間の手でなくすことができます。今は福島の事故が起きる前よりさらに危険な状態です。

【日野】最も効果があるのは原発の運転をしないことです。

【広瀬】その通りです。

【日野】これは福島第一原発事故が残した最大の教訓です。でも、これを守ったら再び運転はできなくなる。だから「再稼働に関係なく燃料が残っている限りリスクがある」という詭弁で避難計画を作らせている。避難計画の役割は原発再稼働を正当化する以外にはありません。こんなもので次の事故に対応できるはずもないし、役所の人間もそれを分かっています。矛盾の極みです。

【広瀬】行政の冷酷ですね。本来守るべき何十万、何百万の人命を軽視している。

因果関係を認めなければ「完全犯罪」になる

【日野】健康被害は因果関係を認めなければいい、被ばくは証拠が残らない完全犯罪だ、と福島第一原発事故で味をしめたのだと思います。彼らはそこまで明確には自覚していないかもしれませんが、「国策に貢献している」と自分に思い込ませて、目の前のミッションをこなすというスタンスでなければ良心が保てないと思います。

【広瀬】集合的確信犯ですね。一人ひとりとは自発的に参加しているつもりかもしれませんが、それが全体として一定の方向性を持ってしまう。これは人間の柔軟性、適応性の高さとも言えます。そうした性質があることで社会的つながりができたり、環境に慣れていくとも言えるのですが。

【日野】その通りです。一人ひとりとは職責を全うしているだけで、避難計画の非人道性については明確に意識していない、考えていないけど、むしろ考えないことによってインチキな原発政策の共犯者になっていくということです。こうしたインチキで非人道的な政策は結論だけを伝えても、多くの人は「陰謀論」としか受け取ってくれません。だから私は公文書という物証に基づいて導き出しました。

【広瀬】これだけ多くの証拠があるので説得力があります。原発行政がいかにインチキで非人道的かを実証的に追及していることは、この本の強みですね。

【関連記事】



IN.

サバンの「ちょど…」取得

会社の未来を敗しきた

業界最今すため

